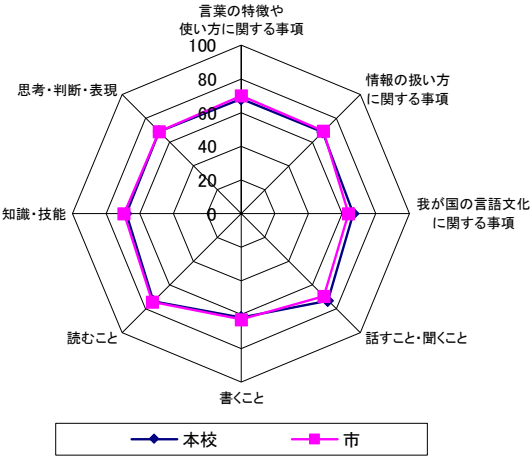


宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	68.1	69.9	72.3
	情報の扱いに関する事項	68.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	73.1	69.5	71.5
	書くこと	61.7	62.8	67.1
	読むこと	73.7	74.4	73.7
観点別	知識・技能	68.0	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.8	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

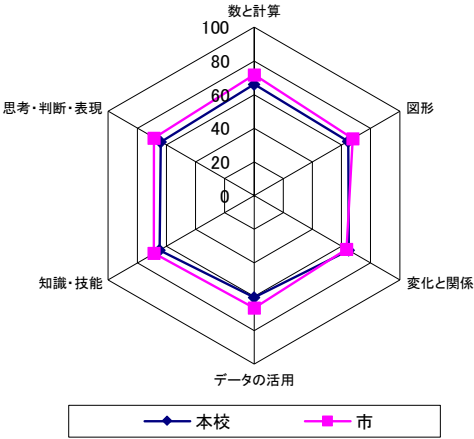
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	平均正答率は、全国、市と比べて低かった。 ○敬語について理解し、正しく使う問題の正答率は98.2%と市、全国より高い値であった。 ○文と文との接続の関係を答える問題の正答率は市、全国より高い値であった。 ●5年生、6年生の漢字を正しく書く問題では、市、全国の正答率よりも低い値であった。特に書く問題での正答率は低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も朝の学習や宿題などを利用して、漢字を正しく覚えられよう指導を継続する。また、漢字の使い方について習熟を図っていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、全国、市と比べて低かった。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を簡単に書いたりする問題の正答率が低かった。問いに答える上で必要な情報を抜き出したり、適切に文章化したりすることに課題が見られた。	・同一のテーマについて書いた友達の文章を見比べ、共通点や相違点を考える機会を、普段の授業の中で意図的につくる。 ・朝の学習や宿題等で、文章を読み取って答えるタイプのプリントに取り組む機会を作る。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、全国、市と比べてやや高かった。 ○和語、漢語、外来語について答える問題の正答率は、市や全国の正答率をやや上回った。	・語句の由来に関心をもち、漢字の成り立ちを調べるなど、我が国の言語文化について親しめるような学習を通して意欲をさらに高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国、市と比べて高かった。 ○インタビューの内容を聞き取り、意図に応じて、質問の工夫を捉える問題では、市や全国の平均正答率を上回った。 ●インタビューを聞き取り、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率をやや上回ったが、全国の平均正答率はやや下回った。	・授業の中で、自分の立場を明確にして話す、自分の意見との違いを考えて聞くなど、論点を整理して話したり聞いたりする学習をさらに続けていく。 ・国語の学習の中での話合いの場面では、相手が何について話しているのか、話題の中心を念頭に置いて聞くことを重視していく。
書くこと	平均正答率は、全国、市と比べて低かった。 ●提示された複数の情報を関連付けて適切に読み取ったり、その内容をまとめて文章化したりすることに課題が見られた。 ●段落の役割について理解し、指定された構成で書くことの問題の平均正答率が、市は上回ったものの全国の平均正答率を下回っている。	・新聞記事やニュースなどを見聞きして意見文を書くなど、情報をもとに文章を書く活動を増やす。 ・段落の役割や文章の構成について、継続的に指導をしていく。 ・書いたり話したりするアウトプットの機会を増やし、考えを言語化することに慣れさせる。
読むこと	平均正答率は全国と同じ、市と比べるとやや低かった。 ○物語を読み、描写をもとに登場人物の心情を捉える問題では、市や全国の平均正答率を上回った。 ●物語全体の流れを通して登場人物の性格を捉えたり、説明文の構成や内容を捉える問題では、市や全国の平均正答率を下回った。	・叙述を根拠として、物語の人物像を捉える活動を行う。 ・説明文に書かれている内容について、「何について書かれている段落か」を捉え、段落ごとの関係性を捉え、全体の構成を理解することができるようにする。 ・複数の段落を関連付けて読み、情報を総合して内容を捉えることができるように読むようにする。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.1	71.8	76.2
	図形	64.6	67.7	67.8
	変化と関係	65.0	63.4	62.7
	データの活用	60.5	66.7	61.5
観点別	知識・技能	64.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	63.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

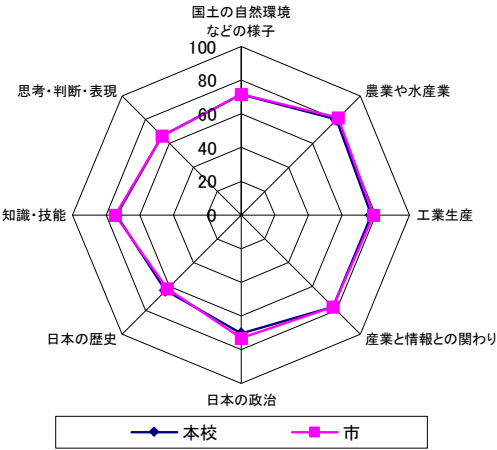
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市を下回った。 ○文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の平均正答率が市の平均より高かった。式の意味を正しく理解する力が付いている。 ●真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、通分をする計算問題をはじめ、約分を要する分数の計算問題の平均正答率が市の平均より低いものが目立った。分数の基礎的な計算スキルが定着していないと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数等の基礎計算を正しくできるようにするために、反復練習の機会を増やすように、授業だけでなく、家庭学習においても計画的に取り組ませていく。 ・授業では、引き続き、文章題のそれぞれの状況に応じて式の意味を考えながら問題解決できるように丁寧に指導していく。
図形	平均正答率はやや市を下回った。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる辺を考える問題の平均正答率が市の平均より高かった。展開図を用いての図形の特徴の理解ができている。 ●線対称な図形や点対称な図形についての問題の平均正答率は、市の平均正答率と比べると低かった。線対称や点対称な図形の性質や特徴に対する理解が不十分と考えられる。	・点対称な図形や線対称な図形については、その性質や特徴を再確認し授業や家庭学習において計画的に練習問題を取り組ませていく。 ・図形の特徴や作図について理解を深められるよう個に応じた丁寧な指導をしていく。
変化と関係	平均正答率は市と同程度だった。 ○速さの単位の関係を考えて分速から秒速・時速に直す問題では、平均正答率が市の平均よりやや高かった。自分の考え方や問題の解き方を友達に対して説明することに繰り返し取り組んできた成果であると考えられる。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題の平均正答率は、市の平均正答率と比べると低かった。割合についての基本的な考え方への理解が不足していると考えられる。	・基準量を使って比較量を求める問題については、基準量・比較量・割合の関係について線分図なども活用しながら繰り返し確認し指導していく。 ・単位量当たりの大きさについての問題では、問題場面や図を提示して、式や商の意味をその都度確認できるように丁寧に指導していくことを継続する。
データの活用	平均正答率は市を下回った。 ●欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選んで問題解決する設問の正答率が、市の平均正答率と比べて低かった。適切なデータを選択し適切に活用する力の向上が課題と考えられる。	・授業でデータの見方について学習する際に、データの度数分布や平均値や最頻値、中心値に着目して統計データの特徴を読み取って判断し、活用することを指導していく。 ・データ分析の仕方を、社会科・総合的な学習の時間の調べ学習や理科の実験考察などの他教科の授業でも積極的に取り入れながら、考察する力を高められるよう指導していく。また、その際に自分の考えを文章にまとめる活動を繰り返し、表現力を高められるよう指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.5	71.6	67.5
	農業や水産業	80.2	81.5	82.1
	工業生産	77.4	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	77.1	77.2	68.2
	日本の政治	70.3	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	63.3	62.0	65.8
	知識・技能	73.9	74.6	74.5
	思考・判断・表現	66.4	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

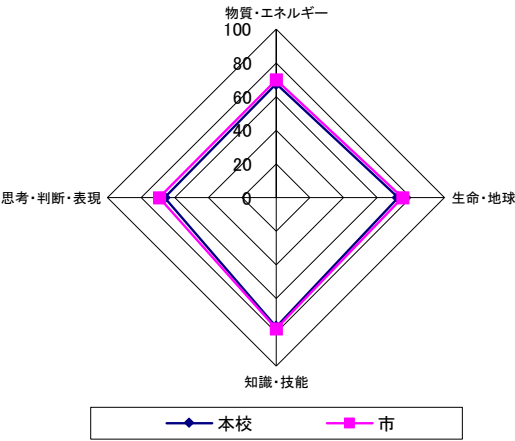
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	全体的に見ると、市の正答率とほぼ同じである。 ○日本の周りの国の国旗、位置についての問題では、市の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置についての理解をもとに地図を読み取る問題では、市の平均正答率を8.3ポイント下回り28.8%である。また、日本周辺の海洋名を答える問題では市の正答率を6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の地形(平野、山脈、川)、日本周辺や世界の主な海洋名について、位置と名称を関連付けながら覚えらるるようになりたりAIDリルやクイズなどを用いたりして楽しみながら習熟を図ることができるようになる。 ・学習の中で地図帳を適宜活用することで、地図を読み取る力を高める。
農業や水産業	全体的に、市や参考値(全国)の平均正答率よりわずかに低い。 ○地産地消の取り組みに関する理解は高く、正答率は市や参考値(全国)の平均より高い。 ●施設用語に関する問題の平均正答率は、市や参考値(全国)より低い。	・既習事項と複数の資料を関連づけ、見られる特徴と条件から、根拠をもって判断する学習方法を身に付けていけるようになる。 ・食糧生産に関する語句や手順に関して、自分の言葉で説明させ、一連の流れの中での役割を関連付けて理解できるようにする。
工業生産	全体的に見ると、市の正答率より高い。 ○自動車の出荷の工夫を捉え表現する問題では、市の平均正答率を2.2ポイント上回っている。 ●日本の輸出品の移り変わりについての資料を読み取る問題では、市の平均正答率を6.9ポイント下回った。	・資料を的確に読み取る力をつけるために資料から分かることをまとめる作業を普段から行う。また、一つの資料から分かることだけでなく、複数の資料を比較したり関連付けたりすることで考えられることをまとめたり、話し合ったりする機会を設ける。
産業と情報との関わり	全体的に見ると、市の平均正答率と同等である。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについての資料から情報を活用するメリットを捉え、判断する問題では、市の平均正答率を6.7ポイント上回っている。 ●メディアの特徴を問う問題では、市の平均正答率を7.0ポイント下回っている。	・インターネットやテレビなど児童がよく利用するメディアだけでなく、さまざまなメディアに触れる機会を設ける。 ・新聞を切り抜いて教室に掲示するなどして、新聞のよさを実感できるようにする。
日本の政治	全体的にみると、市の平均正答率よりも低い。 ○日本国憲法や基本的人権の尊重に関する問題では、市の平均正答率より4ポイント以上高い。 ●三権分立についての問題では、市の平均正答率より10ポイント以上低い。	・政治の学習は、法律や条例などその時の社会情勢によって改定されて変化するものの他、日本国憲法の3つの柱や政治の仕組みなど変わらないものもある。後者については基本的な知識となるため、ドリルやプリント等で繰り返し確認するとともに、三権分立の仕組みを図示して説明する学習も取り入れる。
日本の歴史	全体的にみると、市の平均正答率と同等である。 ○北条政子の訴えについての理解をもとに、年表を読み取る問題や、室町文化についての問題の平均正答率は、市や参考値(全国)と比べて高い。 ●鎌倉幕府が置かれた場所を資料から読み取る問題や、できごとについて適切な見出しを判断する問題の平均正答率は、市や参考値(全国)よりも低い。	・資料を活用する力を身に付けさせるため、問題解決型の授業を展開する。資料は、教科書や資料集だけでなく、ICT機器や図書、実物等様々なものから児童が興味をもって意欲的に読み取りがえるものを提示し、それらを比較したり関連付けたりしながら、自分の考えをもてるように指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.6	69.9	67.8
	生命・地球	72.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	76.7	77.8	78.4
	思考・判断・表現	66.1	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均正答率、参考値(全国)ともにわずかに下回った。昨年度と比較しても下がった。 ○電流のはたらきや物のとけ方では、市や参考値の平均正答率を上回っている。目前で起こる変化が顕著で、実感を持った実験を通しての学習では意欲も高く、理解も深まったと思われる。 ●ふりこのきまりや水よう液の性質では市の平均正答率、参考値(全国)ともに下回った。実験の結果を基に推測したり応用して事象を説明したりすること、目的に応じて実験方法を計画する事などについては今後の指導が必要となる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の目的を明確にしたうえで結果の予想や、得られた結果の考察に十分時間をかけ、できるだけ記述に取り組ませることで、理解を深めるとともに表現力を身に付けさせる。 ・その事象に興味関心を喚起するような導入や実験を工夫し、意欲を高めさせるようにする。 ・学習したことと身の回りで起きている様々な事象と結び付けたり体験させたりすることで、理解を深めさせるようにする。
生命・地球	市の平均正答率、参考値(全国)ともにわずかに下回った。しかし、昨年度と比較するとわずかに上回った。 ○月と太陽で、月が満ち欠けする理由を、モデルを使って説明することや、植物の発芽と成長における対照実験の条件設定では正答率が高い。具体物を使つての思考では理解も深まる。 ●動物のからだや植物のつくりとはたらき、生物とかんきょうでは市の平均正答率、参考値ともに下回った。用語を適切に使つてつくりやはたらきを説明したりまとめたことへの関心が十分に育っていない。	・植物を育てたり自分の体に興味を持たせたりするなど、身近な現象や事象に眼を向けさせることから興味関心を高めるようにする。 ・一人一台端末を用いて、実際の映像や写真などを活用しながら理解を深めるようにする。 ・SDG'sの考えを取り入れ、生物を取り巻く環境や身近な環境にも眼を向けさせることで理解を深めるようにする。

宇都宮市立西原小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	中・高学年において教科担任制を取り入れ、教師の専門性を生かした授業の展開。	学習内容定着度調査結果から、特に算数の全ての分野の正答率が市よりも低く、課題が見られた。教科担任制のメリットとして、児童の主体的な学びを進めていくことはできたが、担任が担当でないことにより、児童の学習における疑問点や困り感を解決する時間を確保することが難しいというデメリットもあり、今後の課題であった。
児童が主体的に取り組めるような単元計画の工夫、学習の展開や場の設定、思考力を育てる指導の工夫・改善	主に体育科の学習を通して、児童が主体的に取り組む、授業以外でも学び続けていけるような単元計画の工夫や授業の展開と場の設定、ノートを使用することで思考を見取り、蓄積していくことなど、共通理解を図れるよう校内研修を行ってきた。	学習内容定着度調査結果から、国語と理科の活用の分野における本校の正答率が、県の値を若干上回っていた。思考力を育てる授業が、少しずつ他の教科にもよい影響を与えていることが分かる。今後も体育科の研究で得たものを、他の教科に広げていけるよう、校内での研修を続けていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎・基本の徹底 ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習とノートの使い方の指導 ・やる気やあきらめない気持ちを育てるための支援・学習ドリル・プリントなど現在の学年以前ののものも取り入れ、家庭学習などで活用する。 ・AIドリルや自主学習を積極的に取り入れ、個別に合った課題を児童自ら学習できるように指導・支援する。 ・答えを導くために思考力を働かせたり、話し合う必然性を感じる課題を与えたりすることで、学習を自分事とし、学びを実感させたり、考えることの楽しさに結び付けたりする。
--